
甘くないチョコレート

M

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

甘くないチヨコレート

【Nコード】

N4898B

【作者名】

M

【あらすじ】

バレンタインデーなどどこ吹く風・・・そんなあの男にも、今年、チヨコレートが届いた・・・

今日はバレンタインデー。

ただし、この男はそんな物が何だといわんばかりに、今日も競馬場に行っていた。

「依頼人も来ないし、町へ繰り出すか！」

とはその男・・・小五郎の弁であるが、コナンも蘭も学校へ行っているというのに留守にしているは、来る依頼も来なくなるに決まっている。

まずポアロで一服、パチンコ店と雀荘を梯子して、さらに新聞片手にメインレース。

そして、今帰ってきた。

「くそーっ！最近「カミナリボーイ」は調子いいからそろそろ賭けてやるかと思つたのにーっ！」

カミナリボーイの今日の騎手は、いつもの「谷豊」氏ではなかったらしい。健闘したものの2位に終わった。

ぶつぶつと不満を言いながら、小五郎は事務所のドアに手をかけた。開けようとする、何かがドアにぶつかった。

足元を見ると、ラッピングされた小さな箱。

「・・・何だこりゃ？」

かがんで箱を持ち上げる。

「・・・ああ、今日はバレンタインだったっけ？」

今頃思い出す男。

「・・・という事は、チョコだよな？・・・誰からだ？蘭はまだ学校だし・・・」

鍵を開けて中に入りながらぶつぶつと呟く。

「ま、まさか・・・」

いきなり顔が緩んだ。

「もしかして、オレのファンの女の子！？」

鼻の下も伸びっぱなし。

「ああ、もしかしてもしかすると、愛しのヨーコちゅわん！？」
小躍りまでし始めた。

「ああ、きつとこのチョコを握り締めて、ドアの前で待っていたんだろっな・・・温かく迎えてやれなくてごめんよヨーコちゃん！」
・・・誰もそんな事言っていないのに。

うきうきとラップリングを開けると、手紙も入っていた。

「おお！？これは愛のメッセーじい！？『大好きな小五郎さんへ』
なんて書いてあったりしてー」

手紙を抜き取ると、表に書いてある文字をまじまじと見つめた。

わりとカチツとした、見覚えのある文字で一言。

『
あなたへ
』

「・・・なああああつ!!?」

爆弾でも見つけたかのように、小五郎はチョコを机の上において後ずさりした。

「え、英理い!？」

明らかにおびえている。

「・・・なんだよ!期待しちまったじゃねーか!」

いくらか気を鎮めた後、もう一度チョコと手紙を手にとった。
手紙を開ける。

「あなたへ

留守だったから置いておいたわ

どうせパチンコにでも出かけたんでしょ?」

「ちくしょー!!当たってやがる!!」

そう言いながらチョコの入った箱を開けにかかり、手紙も同時に読み進める。

『バレンタインだから、チョコをあげるわ
ありがたく受け取りなさいよ!』

「・・・余計なお世話だったの」

『そうそう、そのチョコはね、ジゴバのチョコレート・・・』

「おっ！いいじゃねーか」

箱のふたを開けた。

『・・・を使って、私が手作りしたの』

「・・・くわーーーーっ！！！」

訳のわからない叫び声をあげて手紙を投げる。

「なんでそんな余計な事をするんだよ！？既製品をくれ、既製品を！！！」

ぜえぜえと荒い息をしながら手紙を拾い上げる。

・・・結局読むのか。

『まあ、とにかく食べてみて頂戴』

そこまで読んだところで、小五郎はチョコに目をやった。

「・・・さてよ、手作りチョコって言っても、いったん溶かしたチョコを、また固めるだけなんだよな？」

形はわりと綺麗だ。

「・・・それなら英理でも、そこそのモンが作れるかもな・・・材料はジゴバだし」

そう呟いて小さいチョコを一粒手に取り、口の中に入れた。

今まで食べた事のない味だ。

甘くない。

かといって苦くもない。

これは・・・

(しょっぱーーーーーーーーい!!!)

小五郎は口を押さえて、必死に苦しみに耐えていた。
声が出ない。

口の中のチョコが溶けていくたびに広がる・・・塩の味。

『チラシに、「塩を隠し味にしたチョコ」ってというのが載ってたから試してみたのよ』

(隠し味だと！？隠れてねえ!!!)

涙目になりながら、その一文を読んでいた。

(み、水！)

冷蔵庫を開ける。こういうときに限ってミネラルウォーターがない。
(ああ、こうなったら水道水だ!!!このチョコよりはずっとマシだ!!!)

台所の流し台で口をゆすぎ、何とか一命は取り留めた。

息を切らしながら、手紙を置いたテーブルに戻る。

『どう？飛び上がるほど美味しくて、ビックリしたでしょ？』

「バー口おお!!!飛び上がるほどまずくて死ぬかと思ったぞ!!!」
一人部屋の中で手紙に向かって怒鳴る男・・・
この状況では仕方ないのかもしれない。

『味見はしてないけどね』

「だーっ!!!なんでいつもそうなんだ!?自分で味見しろ、味見を

「！！」

『カカオポリフェノールって、わりと体にいいらしいわよ』

「このチョコは体に悪い！！絶対悪い！！塩分取りすぎちまうだろ！！高血圧になっちまうだろーが！！」

『メタボリックシンドロームって言葉知ってる？』

「こつちが聞きてーよ！！！！お前がメタボリックシンドロームの原因になるだろーが！！」

『蘭もいるんだから、体には気をつけることね』

「こんなの作ったお前が言っな！！高血圧になったら、恨むぞ！！！！」

『まあ、これからしばらくは帰らないからね 英理』

「帰ってくるなー！！」

肩で息をしながら、残りのチョコをどうしようかと考えていた時、手紙の裏にも文字が描いてあるのに気がついた。

『P・S・気持ちは込めたんだからね？』

「・・・」

小五郎はふっと笑った。

「バーロオ・・・どういう『気持ち』だって言うんだ・・・？」

憎まれ口をたたきながらも、顔は嬉しそうだった。

「はつきり書けよな、そういうことは・・・」

しばらくそんな気分に見つめていた時だった。

「おじさん、ただいま！」

その時コナンは、小五郎が、

（よくぞ帰ってきた！）

と小さくガッツポーズをしていたのに気がつかなかった。

「お！帰ったか、コナン！」

「おじさん、それ何？」

指差したのはチョコの入った箱。

「チョコレートだ！食うか？」

「うん！」

と言って手を伸ばしかけたその時、

『あなたへ』

という見たことのある字が目に残った・・・

「や、やっぱりやめとく！」

「な、なんでだよ？」

「それ・・・英理おばさんから・・・でしょ？」

（ちっ、ばれたか・・・）

「おじさん宛ての、心のこもったチョコレートだからさ・・・ボクが貰うわけにはいかないよ！」

「てめえ、上手い事言って、食べたくないんだろ！？おすそ分けだ、食え！！！」

「やだー！！！」

「うるせえ、道連れだー！！！」

蘭が帰ってくるまで、事務所内の壮絶な鬼ごっこは続いていたという・・・

その頃、妃法律相談所。

「ただいま、栗山さん！」

「ああ、先生！」

「ニャー」

「ゴロちゃんも、ただいま」

英理はお気に入りのロシアンブルーを抱き上げた。

「ずいぶんご機嫌ですけど、どちらに行かれてたんですか？」

緑の問いかけに、英理は悪戯っぽい笑みを浮かべた。

「ナ・イ・シヨ」

「・・・」

「さあ、仕事仕事」

いつにない表情を見た緑はきょとんとしていたが、やがてニヤツと笑った。

（ダンナの所だなあ？）

「先生、もうすぐ復縁ですかあ？」

「ん？何か言った？」

「なんでもありません」

数分後、二人はニコニコ笑いながらパソコンに向かっていた。
ゴロはと言えば、紙くずでサッカーを始めていた。

（後書き）

作者より どうも、短編を投稿してみました、バレンタインチョコをあげる相手がいないMであります（^^;）。

えーと、いくつか思いついた短編用のネタの内、これがタイムリーなものだったので、1番に投稿してみました。

バレンタインがテーマなのになかなりギャグ路線に突っ走ってますが、そういう性分なもので（^^;）

実際にチラシに塩入りチョコレートって載ってたんですよ。で、それを英理に作らせてみました。ありがちなパターンですみません（^^;）。

そもそも、これを入れた5本くらいの短編集として、連載しようかと思ってたんですが、前述の理由により一足先に出了ました。

残り4つも完成次第、短編として投稿する事にします。ただし、残りのどれも、こういう、『恋愛とギャグが3：7』という雰囲気だという事を頭に入れてください。（^^;）

連載も頑張ります。それでは。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4898b/>

甘くないチョコレート

2010年10月11日18時45分発行